史蹟史料部
2022 年 8 月 15 日
#8

日本人墓地公園　ニュースレター

二木多賀治郎と共済会

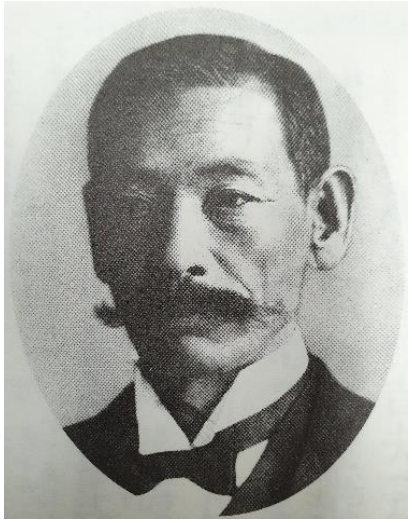
日本人墓地は 1888 年（明治 21 年）、二木多賀治郎（ふたき たがじろう）が自己所有のゴム園の一部を墓地として提供したことにはじまり、1891 年には自己所有地を日本人共有墓地として使用する認可を取得しました。

二木多賀治郎は長野県出身の元船員でした。1888（明治 21）年、シンガポールに渡来。娼館、雑貨商、ゴム園の経営で財を成し、初期の日本人街のまとめ役ともなりました。渡来すると間もなく、彼は日本人の相互扶助を目的とした「共済会」を発足させ、会長職を奉じ、長く日本人社会に尽くしました。

また、日本に帰ることなく一生を終えた同胞のため、当時の英国植民地政庁の許可を得て自己所有のゴム園を提供し「日本人墓地」とし、共済会は墓地の管理も行いました。

享年は定かではありませんが、70 才くらいであったと推定されます。多賀治郎の漢字は戸籍上は「二」となっており、「南洋発展」（明治 44 年刊）には「次」が用いられているが、「治」が定着していたものと思われます。

「共済会」は現在の日本人会の前身です。多賀治郎は当時からゆきさんや浮浪無宿の者が時に貧窮にして病に倒れ、牛馬の棄骨場に埋められているのを悲しみ、無縁仏二十七体を掘り起こして、共同墓地に引取って改葬し「無縁塚の碑」を建てました（現在は見当たりません）。これを機に1889 年に共済会が発足しました。



二木多賀治郎
（ひ孫の浜田章浩氏提供）

多賀治郎の墓は御堂のすぐ隣にあります

日本人共有墓地申請者
中川菊三と渋谷銀治

二木多賀治郎とともに中川菊三と渋谷銀治が発起人となり、日本人共同墓地を当時の英植民地政府に申請しました。

中川菊三は雑貨商・美術商を経営し、1895 年には笠田直吉と当地初のコーヒー栽培園を共同経営。1902 年にマレーで150 エーカーのゴム園も共同経営し、日本人所有初の大規模ゴム園となりました。1915 年に新嘉坡日本人会が発足した際には、副会長に就任しました。

メモリアルプラザにある渋谷銀治の碑

雑貨商を営んでいた渋谷は、上海在住時に知った本願寺事業の慈善会墓地制度に関する情報を提供。後に横浜に帰り、墓は千葉県市川市にあります。彼の先妻・後妻は当墓地に埋葬されています。墓を囲った柵が特徴的です。

出典：

「シンガポール日本人墓地公園 - 写真と記録 改訂版 - 」
シンガポール日本人会 史蹟史料部
1993 年改訂版発行　233p.

「戦前シンガポールの日本人社会 - 写真と記録 改訂版 - 」
シンガポール日本人会 史蹟史料部
2004 年改訂版発行　232p.
（閲覧日：2022 年 7 月 3 日）